文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）」

DDユニット事業推進室だより

ダイバーシティ・ダイヤモンド（DD）
事業推進室

3機関連携女性研究者支援事業
国立大学法人 東京医科歯科大学
順天堂大学
株式会社ニッピ
5号
令和2年3月

田上特命副学長が男女共同参画担当役員に就任　東京医科歯科大学

東京医科歯科大学では2019年10月1日に田上順次特命副学長が男女共同参画担当役員（教育担当との兼任）に就任しました。以下、田上特命副学長のインタビューです。

「東京医科歯科大学初の"男女共同参画担当役員"ということで、責任を重く感じています。特に、このダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ事業に参加している他の組織と比較すると、本学は女性の参画が遅れている状況があります。そのため、少しでも改善できるよう努力したいと思います。また医療系大学という社会的側面からも、女性の参画はより一層求められているということを意識して取組んでいきたいです。

学内的には女子学生の比率が以前よりも高くなっているため、女性が活躍しやすい環境づくりやダイバーシティの事業は必要に迫られています。今後、もし可能であれば、教員採用のプロセスの中で女性参画を意識した仕組を取り入れられれば良いと思います。

学内の皆様が、ライフイベントにかかわりなく一生学び、働き続けられるための工夫や支援策を大学として提供したいです。そして将来的には、女性参画を意識したこれらの取組がなくても、自然に女性が増えていくようになることを理想にとらえています。」

「女性活躍の推進」と「働き方改革」の促進に向けて　順天堂大学

2019年11月、順天堂大学医学部に10名の女性特任准教授が誕生しました。今回任命された特任准教授の中心は、外科系医師として教育・研究・診療に活躍している女性助教の昇任によるものです。

学長のリーダーシップにより導入された女性特任准教授には、順天堂大学での「女性活躍の推進」と「働き方改革」を牽引し、各診療科の女性上位職とともに、診療科固有の課題を議論し、有効な取組を他診療科と共有し、見直すきっかけを作ってもらいたいと思っています。

順天堂大学では、引続き、女性が活躍できる環境の更なる整備を図ってまいります。

第5回 合同シンポジウム「イクボス※が創る医療界の多様性」

本シンポジウムは、働き方改革の導入を眼前とする医療界において、組織のサステナビリティを確保するためには「イクボス」の存在が重要になるという趣旨で2019年10月15日に開催しました。

東京医科歯科大学の吉澤靖之学長と順天堂大学の新井一学長の開会挨拶で幕開けし、文部科学省科学技術・学術政策局の菱山豊局長による来賓挨拶を受けました。

（次ページに続く）

※ イクボス：部下等のキャリアとライフイベントを重視しながら、リーダーシップを発揮する男女の上司・ボスのこと

前原　健寿

水野　一乗

菱山局長は、人口減少の著しい日本社会において、社会の活力を維持・向上するためには、すべての人々が活躍できるよう、男女を含めたダイバーシティの推進が必要不可欠であるとし、科学技術の分野では女性研究者比率の増加、とりわけ教授・准教授といった上位職における女性比率の増加が期待されていると述べました。また、本シンポジウムの主催機関に対しては、更なる連携強化をはかり、個々の強みの相乗効果をより高めてほしいと、今後の活動に向けたエールを送りました。

続いて、医療の現場で活躍する3名の講演者が登壇しました。最初に登壇した東京医科歯科大学の前原健寿教授（脳神経外科）は、脳神経外科医の女性比率が、日本全体では約7%である中、東京医科歯科大学では約44%を占めていると示しました。その背景には、脳神経外科学の魅力を広く発信するほか、いわゆるM字カーブの解消を目指し、子育て世代のワーク・ライフ・バランスの満足度が上がるよう職場環境の整備を心掛け、多彩なロールモデルを紹介しダイバーシティを受容する土台を作る等といった努力があったと述べました。また、今後の課題として、臨床を離れている女性医師のキャリア復活等をあげました。

次に、株式会社 ニッピ バイオマトリックス研究所の水野一乗所長は、「イクボス」の言葉の定義と他組織における取組を紹介したうえで、研究所長という“中ボス”である自身の立場を活かし、子育て世代が多い研究員のために、フレックスタイム制やIT推進による在宅勤務を提言し、働きやすい研究環境の実現につなげていきたいと話しました。この提言は、2001年から12年間、アメリカの研究所でコラーゲン研究に従事した際、共働きの同僚たちが、フレックスタイム制を活用して育児と仕事を両立させ、研究の成果を上げていく姿を目にした経験に基づいているとのことです。

順天堂大学の安藤美樹准教授は、自身のライフストーリーを通して、キャリアを継続する上で、「イクボス」の存在がいかに重要であったかについて話しました。順調にキャリアを積んでいる最中に妊娠、出産と育児によりキャリアを中断せざるを得ない時期があったそうです。また、念願のアメリカ留学を果たした後にも大きな困難に直面しましたが、「血液内科医として復帰したい」という思いをモチベーションに、フルタイムの博士研究員の職を得ました。そこで、1人目の「イクボス」に出会い、徹底したトレーニングを受け、キャリアを大きく前進させることができたそうです。帰国後、「明るく元気にへこたれない」をモットーにする2人目の「イクボス」に出会い、その言葉に導かれ更に研究に邁進、2016年に現職に就き、自らが研究グループの「イクボス」となった今、育児の喜びをモチベーションとして、不公平感のない、助け合えるようなグループ作りを心掛けていると述べました。

安藤　美樹

野田　聖子氏

野田聖子氏は、「これからの日本」をテーマに、男女共同参画、広くはダイバーシティ推進の切り口で過去を振り返り、現状を踏まえ、未来への課題と展望について語りました。かつての日本は、人口と経済が右肩上がりで成長しましたが、現在は人口減少と経済縮小の問題に直面しており、従来の考え方や手法では、サステナブルな社会は築いていけないと述べました。そのような現状を切り拓く際にキーワードになるのが、「ダイバーシティ」の視点ですが、日本における「ダイバーシティ」の概念は狭義的に“男女”に偏りがちです。グローバルな広義的な目線では“年齢”“障害の有無”“性的指向”など多岐に富んでいます。これからの日本では、そのような差異を抱えた個々の人々すべてが、安心して暮らせるような、クオリティの高い新しい社会を創出していくことに注力すべきであると述べました。医療界においては、これまでは男性の労働力が主な資本とされてきましたが、医師の働き方の見直しが叫ばれ、人口減少が進む現状において、従来の在り方で将来設計をし続けることは不可能です。女性医師の比率が高い国の在り方を参考にしながら、たとえば、複数主治医制へのシフトなど、一人の医師にかかる精神的・時間的負担を軽減させるといった改革を行うことも一つの方策であると示しました。

閉会挨拶では、株式会社 ニッピ バイオマトリックス研究所の服部俊治顧問・研究戦略責任者が登壇し、「ダイバーシティの取組は、相互のため、社会のためのものであり、魂を入れて取組んでいきたい」と述べ、シンポジウムは閉幕しました。

研究力強化の支援

研究主宰者としてのスキルを有するPI（Principal Investigator）を育成することを目的に、女性研究者が研究代表者となる共同研究を支援しています。

2019年度は2018年度に引き続き3機関あわせて4名の女性研究者が実施する共同研究を採択しました。

2019年度採択者	所属機関	職位	研究テーマ
湯浅　磨里	東京医科歯科大学	助　教	疾患変異型リアノジン受容体を標的とした研究において、リアノジン受容体のサブタイプRyR1,RyR2,RyR3のうちRyR2に着眼したカルシウム誘発性カルシウム放出活性を阻害する新規化合物の創製
千葉　麻子	順天堂大学	准教授	腸管在住自然リンパ球を標的とした免疫疾患の制御法開発
藤﨑ひとみ	株式会社 ニッピ	課　長	Ⅰ型コラーゲンゲル上培養によりヒトガン細胞に誘導されるEMT様転換の解析
遠目塚千紗	株式会社 ニッピ	課長代理	トリペプチドX-Hyp-Glyを高含有するコラーゲン加水分解物の摂取が生体の骨代謝および脂質代謝にもたらす作用の研究

共同研究支援 研究成果発表会

日　時　2020年2月21日（金）13:00～14:00

場　所　東京医科歯科大学

2019年度の研究成果について各共同研究の研究代表者によるプレゼンテーションが行われ、この内容をもとに総合評価を行ないました。

育児・介護と研究との両立支援

ファミリーサポート事業

システム運用から4年目を迎え、会員総数は273名、利用件数は全1841件となりました（2020年2月末日時点）。

特に、今年度の利用件数の伸び率は著しく、1年あたり700件の目標件数を大幅に上回り、927件の実績となりました。定期利用や、第2子、第3子の出産に際するきょうだいの保育園送迎、待機児童の一時預かり等の増加が、利用件数の伸びにつながりました。

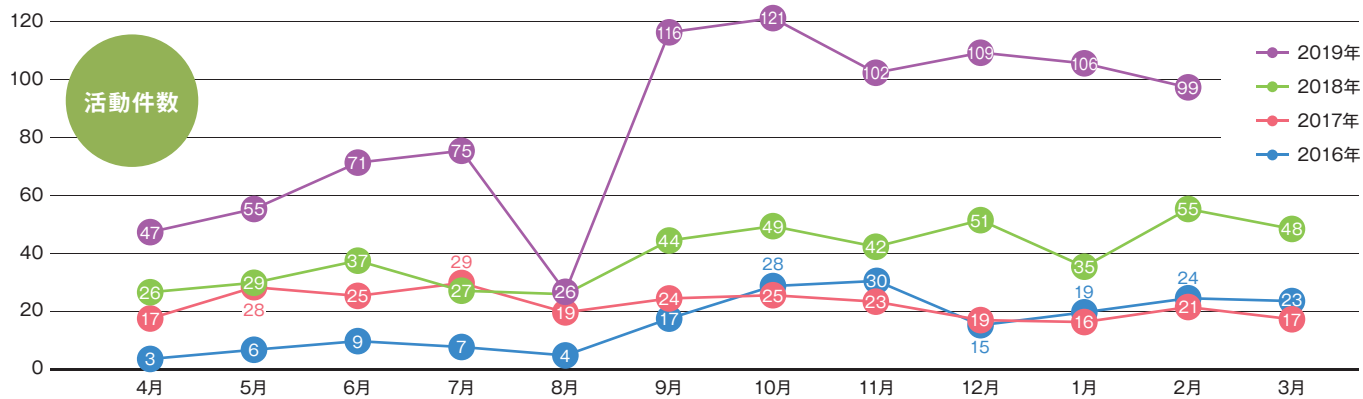
4月からは、病児・病後児保育の受入対象が、生後6ヶ月以降と拡大し、2件の病児保育の利用がありました。また、保育サービス講習会を2クール、スキルアップ研修会を2回開催し、提供会員の増加と技術研鑽に努めました。

依頼会員対象のアンケート調査では、「同じ方に預けられるのが安心」「温かいサポートが有難い」「仕事を継続するために必要」という声が寄せられています。

これからも、依頼会員のニーズに沿い、システム向上に努めます。本システムを是非ともたくさんの方に活用頂きたいと思います。

会員総数（人）	273
提供会員	120
依頼会員	153
（内訳）東京医科歯科大学	102
順天堂大学	49
株式会社 ニッピ	2

2020年2月末日時点



全体交流会の開催　～ハーバリウム作り～

ＤＤユニットファミリーサポートでは、会員同士の情報交換の場として、年に1回、全体交流会を開催しています。今年度は、2019年11月17日に講師の方をお招きし「ハーバリウム作り」をしました。たくさんの花材の中から好きな花材を選び、思い思いの作品を作り上げることができました。

依頼会員の方は、お子さまと一緒にご参加いただき、親子でハーバリウム作りを体験していただきました。作品を作りながら、育児の様子や活動の様子など情報交換し、クリスマス前の楽しいひと時を過ごすことができました。

皆さん、初めてのハーバリウム作りでしたが「子どもと一緒に制作できて、楽しかった」「今度は、お正月の作品が作りたい」など、充実した内容の感想が寄せられました。

研究支援員配備 採択者インタビュー

本事業は出産･育児･介護等のライフイベントを迎えて、仕事･研究の継続に困難を感じている研究者の方に、研究業務の補助を行う研究支援員を配備することにより、キャリア継続や研究発展の支援を行うことを目的としています。

2019年度は東京医科歯科大学と順天堂大学とで20名の研究者に研究支援員の配備を行い、うち2名の方から「支援を受けた感想とその効果」についてお伺いしました。

東京医科歯科大学
歯学部附属病院　総合診療部　助教
則武　加奈子

育児休業から復職した2015年度より研究支援員配備をしていただいております。臨床系の教員は元来、臨床･教育業務にどうしても時間を多く取られてしまいがちです。日々限られた時間の中で、私自身が研究に割くことのできる時間は決して多くありませんが、研究支援員の方にデータ整理などの作業を日々進めていただけるので、効率的に研究に取り組めており、本当になくてはならない存在です。支援に心より感謝しております。

順天堂大学大学院
医学研究科　神経機能構造学　助教
横田　睦美

2人目の育児休業明けの2019年度に、本制度により研究支援員配備をして頂いています。支援員の方に組織切片作製や免疫染色等をして頂いている間に、講義や実習の準備、他の実験やデータ整理等を進めることが出来ています。現在それらの研究結果をまとめて論文作成を行っています。ワーキングマザーはとにかく時間が足りない人が大半だと思いますので、本制度はその足りない時間を補って自分の仕事の幅を広げてくれる大変有難い制度と実感しています。

イクボスインタビュー

ライフイベントと学業･研究･仕事を両立させ年齢や性別にかかわらず持続的なキャリア形成ができる環境づくりへの要のひとつが「イクボス」の存在であると注目されています。

育児と研究を両立させている研究者の上司の方に、部下のワーク･ライフ･バランスや、イクボスについてのご意見を伺いました。

（次ページに続く↗）

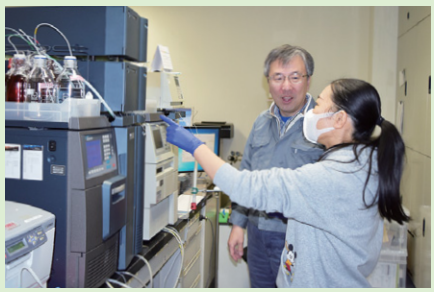
東京医科歯科大学
難治疾患研究所　教授
佐々木　雄彦

Q1　現在、部下の仕事と家庭の両立を応援するために、どんな工夫をされていますか？

保育園の開園時間やラッシュアワーを考えて、ラボのコアタイム開始時間は遅めに設定しています。また、部下が退勤時間を自身で計画しやすいように、突発的な仕事や締切のある仕事は頼まず、長時間の煩雑な仕事は周りの研究者がサポートできる体制を心がけています。

Q2　東京医科歯科大学でイクボスがもっと増えるには、どんなことが必要だと思われますか？

個人の子育てと研究社会の競争は方向が直交するものなので、研究室のマンパワーがない状況だと一個人にかかる期待や責任が大きくなりすぎます。研究支援員配備のような大学内でのサポート制度はイクボスにも大変助けになります。また、日本学術振興会のRPD（Restart Postdoctoral Fellowship）のような、子育て中の研究者の支援制度を活用することも重要だと思います。



株式会社 ニッピ バイオマトリックス研究所　次長
楠畑　雅

Q1　現在、部下の仕事と家庭の両立を応援するために、どんな工夫をされていますか？

私は研究開発部門に勤務しており、部下には双子のお子さんを育児中の女性がいます。元々、彼女は機器分析のスキルが高かったので、産休から職場復帰後も引き続いて機器分析を中心に担当してもらっています。前処理などに時間がかかり、面倒な事も少なくありませんが、装置のオートサンプラーにセットすれば機器が自動的に分析してくれます。

一方で他の研究員と使用がかち合ってしまい勤務時間中に装置をスタートできない事もあるので、できるところまで準備してもらって、私が引き継ぐ事もあります。継続的、長期的な研究テーマへの取組は少し難しくなりましたが、逆に時間内で対応して頂ける単発の分析依頼などに柔軟に対応してもらい、育児中でも無理なく本人のモチベーションを落とさないような工夫もイクボスとしての大切な役割だと考えます。

Q2　株式会社 ニッピでイクボスがもっと増えるには、どんなことが必要だと思われますか？

弊社（株式会社 ニッピ）は子育て中の女性社員の短縮勤務の延長を労務部に認めて頂きましたが、これには上司の理解が最初に必要だと思います。また勤務時間だけでなく、通勤方法として自家用車を許可してもらったのは私も助かりました。東京医科歯科大学のような都心の勤務地では難しいと思いますが、弊社のような郊外の場合は柔軟に対応してもらいたいと思います。

子どもの体調は急に変わることが往々にしてあります。本人の通勤に少しでも余裕があるとイクボスとしての余裕も生まれやすくなると思います。

若手研究者キャリアパス支援

次世代育成支援事業の一環として、若手研究者のキャリア形成促進に役立つ自主企画事業を実施しています。

2019年度は東京医科歯科大学の2名の大学院生が参加し、「研究者の結婚観とストレス」をテーマにアンケート調査を行いました。対象者は東京医科歯科大学の男女の教職員と大学院生で、378件（女性55%、男性45%、既婚者54%、独身者46%）の回答がありました。設問は大きく3項目あり、それぞれ「Perceived Stress Scale（以下PSS）：知覚されたストレス尺度」、「Work Family Conflict（以下WFC）：仕事を原因として家庭に生じる葛藤」、「結婚に対する意識」に関する内容でした。

1週間あたりの研究時間数については、回答者の80%が40時間以上研究に費やしていると回答していました。

（次ページに続く）

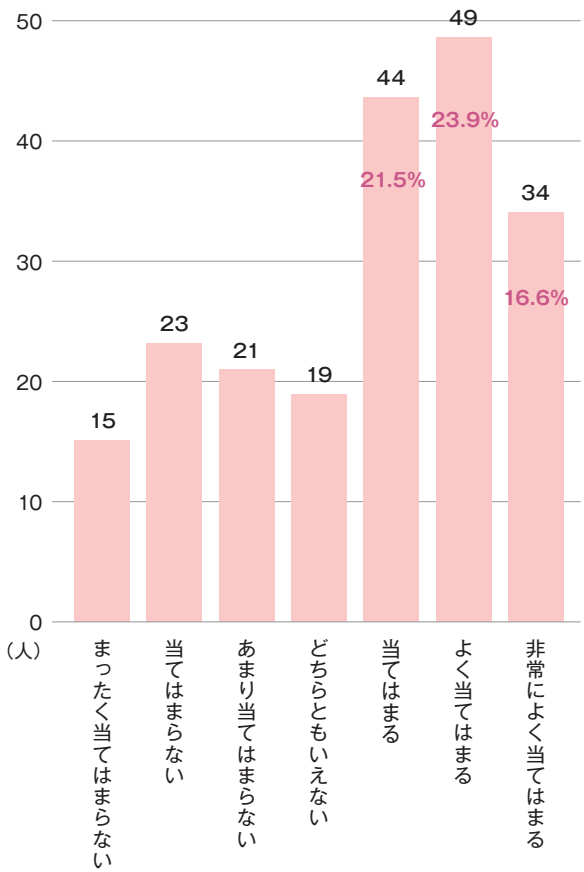
男女別にみると、男性回答者の方が女性回答者よりも長い時間を研究・仕事に費やしていることが分かりました。PSSについては、「この1カ月、神経質になったりストレスを感じたりしたことはありましたか？」では「よくある」が30.7%、「とてもよくある」が30.1%と、比較的ストレスを受けた者の率が高い状況でした。

WFCについては、「仕事や研究のせいで、家族との充実した時間を十分にとれない」への回答は「当てはまる」が21.5%、「よく当てはまる」が23.9%、「非常によく当てはまる」が16.6%と、葛藤を感じている者の方が感じていない者よりも多い結果でした（グラフ1）。全体的には、わずかな違いでしたが、性別ごとに見ると男性はWFCが女性より大きく、女性はFWC「Family Work Conflict」(家族を原因として仕事へ生じる葛藤)が男性より大きいという結果でした。

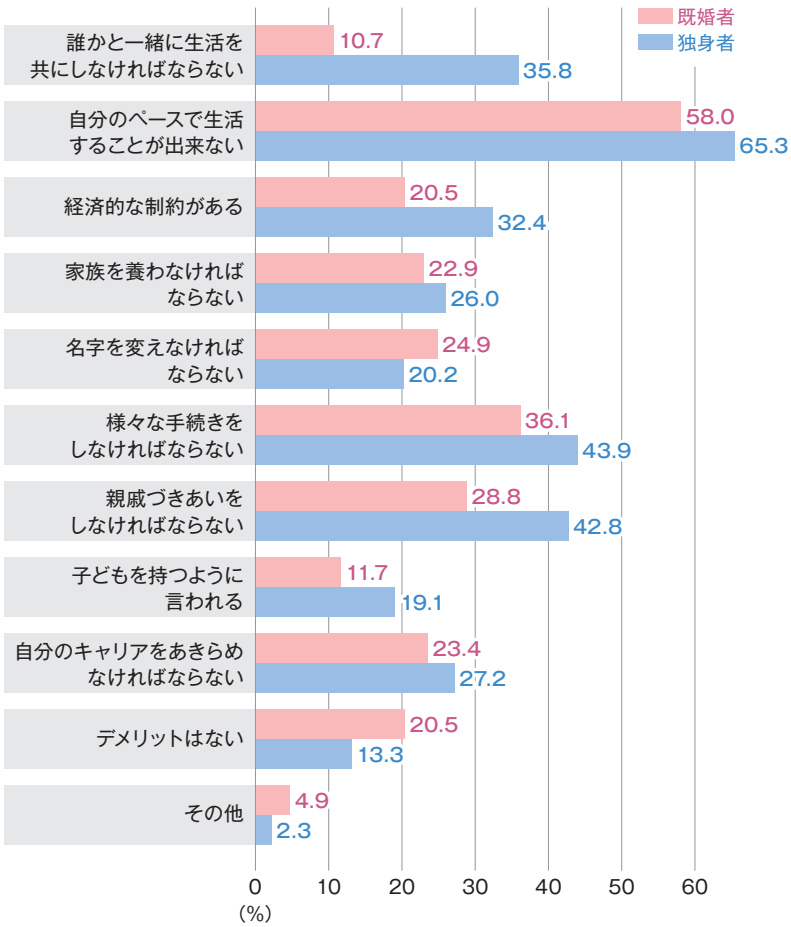
結婚への意識については、「結婚へのデメリット」について聞いたところ、既婚者に比べて独身者の方が、それぞれの項目をデメリットとしてとらえている割合が高い結果でした。特に独身者において、他者と生活を共にすることをデメリットとしてとらえている者の割合が高い状況でした。逆に「デメリットはない」では独身者に比べ既婚者の方が選択した回答者の割合が高い結果でした（グラフ2）。これらの理由として、独身者は実際の結婚生活を知らないため、もしくは結婚をしない理由付けのために無意識にデメリットを過大にとらえている、等が考えられます。

今回の調査では、研究者のストレスやWFCにおいて、男女における大きな差異は見られませんでした。一方で独身者から回答を得た結婚に対する考え方、プレッシャー、結婚のデメリットに関する設問においては、男女間での違いを見出すことができました。今後の提案として、ストレスやWFCの背景に関して、詳細なインタビュー調査を実施し、研究活動でのストレスの軽減や働きやすい環境改善を目指すことができると考えます。また、世代間交流会を開催し、共働き世代の家庭やワーク・ライフ・バランスに関する現状を管理職世代や独身世代の研究者と共有し、そこで得られた知見をより良い研究室運営につなげたいと考えています。調査の詳細な結果については、右記のQRコードから報告書をご覧下さい。

グラフ1 仕事や研究のせいで、家族との充実した時間を十分にとれない。



グラフ2 結婚のデメリットだと思われるものを以下から選んでください。（複数選択可能）既婚者／独身者



第9回 順天堂大学 女性研究者研究活動支援シンポジウム

順天堂大学は、2019年11月30日、第9回女性研究者研究活動支援シンポジウム「チャンスを捉えてキャリアを拓く～研究、臨床を極めて“リーダーとしての道”を示す～」を、東京医科歯科大学・株式会社 ニッピ バイオマトリックス研究所の共催で開催しました。

丹司　紅氏

村島　温子氏

会　場

順天堂大学　本郷・お茶の水キャンパス　センチュリータワー南12階　1201教室

内　容

● **基調講演**

「Road less traveled. My 30 years with mitochondria- then, now, tomorrow.」

丹司　紅氏（Professor of Pathology & Cell Biology and Neurology, Columbia University Medical Center）

● **特別講演**

「不条理への疑問が導いたもの－日本母性内科学会の設立－」

村島　温子氏（国立研究開発法人　国立成育医療研究センター
周産期・母性診療センター　主任副センター長）

● **医学部長からのメッセージ**

服部　信孝（順天堂大学　医学部長・医学研究科長）

● **本学女性研究者からの発表**

「研究留学を通じて見えてきたもの」

佐伯　春美（順天堂大学　医学部病理・腫瘍学講座　特任准教授）

「アイデア脳と五択脳」

齋藤　アンネ 優子（順天堂大学　医学部放射線治療学講座　准教授）

概　要

基調講演では、丹司 紅氏（Columbia University Medical Center）より、自身のライフワークであるミトコンドリア研究について講演を頂きました。ミトコンドリア研究の歴史的背景とともにコロンビア大学でのミトコンドリア治療のup to dateにも触れ、“ミトコンドリア医学”の今後が概説されました。また、病理学者としての立場から、病理学領域における最新のテクノロジーなどについてお話がありました。特別講演では、村島 温子氏（国立成育医療研究センター）から、ご自身の医師人生を振り返りながら、日本母性内科学会設立までの背景やストーリーをお話し頂くとともに、これからの女性医師が出産や子育てをしながらキャリアを形成していくためにすべきことなどについて講演を頂きました。

その後、服部医学部長（順天堂大学）から基調講演と特別講演についての感想と女性研究者への期待が述べられました。また、研究留学を経験した学内の2名の女性研究者からは、現地での感想、キャリア形成に活かされたこと等が事例として報告されました。学内外からの多くの参加により、多数の意見・感想を得て盛況のうちに閉会しました。

シンポジウム参加者からの感想

1.基調講演

- 30年間、アメリカで実際に働いている教授のお話、とても興味深かったです。たゆまない努力を続けていればいつかは何か道が拓けるのだと思いました。
- 内容がとても興味深く、ミトコンドリア病の治療法についてのお話が聞けて良かったです。また、お話も大変分かりやすく勉強になりました。
- 非常にパワフルなお話で、自分も研究や留学を楽しんでトライしていこうと思いました。
- 研究者、病理医としての30年にわたる研究への熱意を大変感じました。

2.特別講演

- 日本における女性のキャリアアップに関した具体的なお話で良かったです。
- 「女性の活躍のために、女性に期待することが必要」というご発言が心に残りました。
- 出産、子育てをしながら、女性がキャリア形成していくための周りのサポートの必要性、本人の前向きな強い意志の重要性を感じました。
- ご自身の経験やプライベートな部分もシェアして頂きながら、親しみやすいお話で大変ためになりました。

3.本学女性研究者からの発表

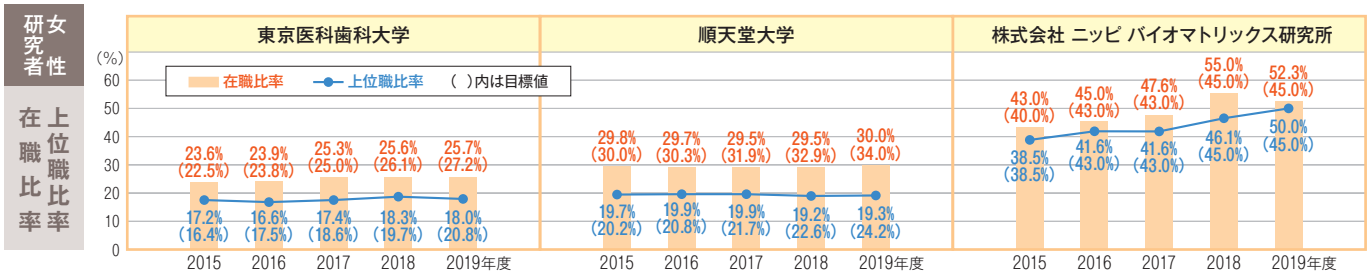
- 子どもがいる状態での留学に関するリアルなお話が聞けて良かったです。
- キャリアパスは人それぞれで、これといった正解はないのだと思いました。
- 自分の講座には、女性でお子さんがいて留学をされた医師がほとんどいなかったので、お話を聞けて良かったです。
- 身近なロールモデルとして、自分のことを考えるきっかけになりました。

女性研究者比率について

女性研究者支援事業の一環として各連携機関において、女性研究者比率の数値目標を掲げていますが、東京医科歯科大学と順天堂大学において、その目標は未達成の状況にあります。この状況を改善させるため、東京医科歯科大学では特命副学長（男女共同参画担当）を10月1日付で新設し、順天堂大学では医学部に10名の女性特任准教授が11月1日付で昇任いたしました。

また、株式会社 ニッピ バイオマトリックス研究所の女性研究者の在職比率は52.3%、上位職比率※1は50%となり、各目標値を大きく上回りました。特に上位職比率については、本事業の共同研究で支援した若手研究者が職位を上げた等の大きな成果が生まれています。

※1上位職：講師あるいは課長代理以上の職



科研費採択ランキング、女性研究者 頑張っています！

日本学術振興会の公表資料「研究者が所属する研究機関別 採択件数・配分一覧※2」をもとに、科研費取得機関（約1300機関）のうち、採択件数上位40機関を女性比率により順位付けしました。

2014年度からの6年度において、東京医科歯科大学と順天堂大学は1～3位に入っており、両大学での女性研究者の研究力が、極めて高い水準にあることを示しています。

※2 日本学術振興会HP（科学研究費助成事業＞研究機関別配分状況）による

科研費採択件数（上位40機関）に占める女性比率（%）

	2014年度		2015年度		2016年度		2017年度		2018年度		2019年度	
1位	順天堂大	32.1	順天堂大	30.9	順天堂大	29.5	東京医科歯科大 順天堂大	27.1	順天堂大	27.1	順天堂大	28.8
2位	千葉大	23.1	東京医科歯科大	25.4	東京医科歯科大	26.3			東京医科歯科大	25.6	名古屋市立大	24.6
3位	東京医科歯科大	22.3	千葉大	24.2	千葉大	23.7	千葉大	23.0	千葉大	22.8	東京医科歯科大	24.3
4位	東海大	22.1	東海大	22.6	東海大	22.5	同志社大	21.5	名古屋市立大	22.7	横浜市立大	
5位	徳島大	18.2	名古屋市立大	20.9	立命館大	19.7	名古屋市立大	21.0	群馬大	22.4	首都大学東京	23.6

★ 同率の場合、採択件数が多い順

2019年度事業＜取組実施内容＞一覧

実施日	取組内容
2019年 4月26日	第1回事業推進委員会
5月17日～ 6月11日	ファミリーサポート 第8期保育サービス講習会
6月21日	第4回内部評価委員会
7月9日	第3回外部評価委員会
7月22日	第2回事業推進委員会

実施日	取組内容
9月3日	ファミリーサポート 第1回スキルアップ研修会
9月13日	第3回事業推進委員会
10月15日	シンポジウム 「イクボスが創る医療界の多様性」
10月18日～ 11月12日	ファミリーサポート 第9期保育サービス講習会

実施日	取組内容
11月12日	ファミリーサポート 全体交流会
11月30日	順天堂大学シンポジウム 「チャンスを捉えて キャリアを拓く」
2020年 1月30日	ファミリーサポート 第2回スキルアップ研修会
2月21日	共同研究支援 研究成果発表会

編集発行

DDユニット事業推進室

〒113-8510 東京都文京区湯島 1-5-45 東京医科歯科大学 5号館3階（学生・女性支援センター内）

TEL：03-5803-4921 E-mail：ddunit.ddu@tmd.ac.jp

Webサイトをご覧ください：http://www.tmd.ac.jp/cmn/ddu/

ご意見・ご要望をお寄せください。